

令和6年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団体名	いわき市	
施設名	いわき芸術文化交流館	
内定額	11,413	(千円)

1. 基礎データ

(1) 開館日数・事業本数・貸館日数

項 目		令和5年度	令和6年度
開館日数		344	347
年間事業本数（※1）	主催事業	21	23
	公演事業	7	6
	（内、本助成対象事業本数）	0	0
	人材養成事業	3	4
	（内、本助成対象事業本数）	0	4
	普及啓発事業	10	12
	（内、本助成対象事業本数）	0	9
	その他 内容： ギャラリー等活用事業	1	1
貸館日数	ホールごとの貸館日数	613	621
	ホール名： アルパイン大ホール 座席数： 1705	181	173
	ホール名： セキショウ中劇場 座席数： 687	135	168
	ホール名： GSユアさいわき小劇場 座席数： 233	130	138
	ホール名： 音楽小ホール 座席数： 200	167	142
	ホール名： 記入してください 座席数： 記入してください		

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

(2) 施設利用者数・利用率

項 目		令和5年度	令和6年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	46,510	56,061
	公演事業	5,862	4,317
	人材養成事業	326	1,377
	普及啓発事業	5,322	12,907
	その他 内容： ギャラリー等活用事業	35,000	37,460
	貸館事業入場者・参加者数	192,358	169,707
	その他 内容： 練習室利用者	92,736	105,786
	計	331,604	331,554
施設の利用率(%)		100.0%	100.0%

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設(美術館、図書館等)のみへの入場者数は除きます。

(3) 公演事業データ

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	入場者・参加者率	事業本数内訳						
						演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合(※4)	その他
令和5年度	主催公演(※1)	7	7	5,862	52.3%	2	3		1	1		
	共催・提携公演(※2)	19	23	30,830	83.8%	3	14			1		1
	貸館公演(※3)	476	478	161,528	33.8%	60	306	33	2	3		72
	計	502	508	198,220								
令和6年度	主催公演(※1)	5	5	4,317	78.5%	2	2			1		
	共催・提携公演(※2)	17	19	23,903	78.6%	2	10	2		1	2	
	貸館公演(※3)	346	346	145,804	42.1%	13	220	19	4	5		85
	計	368	370	174,024								

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「貸館公演」における「入場者・参加者数」及び「入場者・参加者率」は概算で構いません。
※4 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

2. 公演事業の実績記録と自己評価

(1) 各公演事業における 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標(値)

- 令和6年度助成対象事業のうち公演事業について、助成対象事業ごとに自己評価を記入してください。

事業 番号	事業名	入場者数	入場 者率	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	備考
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							
		目標 値							
		実績 値							

3. 自己評価

評価項目①:創造性・企画性

評価の観点
・(企画力)地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・(制作力)優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・(発信力・影響力)圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・(レジデントカンパニー・アーティスト)当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら、事業類型ごとに自己評価を記入してください。

	評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
公演事業						
人材養成事業	①専門人材育成事業への応募者数(定員充足度) ②育成対象者の研修後の反応	①4事業で募集定員を上回る、総育成者数300人 ②アンケートで好評価を得る(「期待通りの成果あり」「期待以上の成果あり」の回答が90%以上)	①207人 ②89%	・①人材養成事業の総育成者数は目標値に達しなかった。大きな要因は、「部活動支援事業」で当初計画していた合唱部対象の事業が実施できなかったことと考えられる。 ・今年度の育成者には今後も参加してもらえるように情報提供しつつ、新たな育成者が増加するように学校等の関係機関と連携して取り組みたい。 ・②育成対象者の研修後の反応は、目標を概ね達成することができた。人材養成事業の各事業は次年度も継続するものであり、今後も好評価を得られるよう、事業内容をブラッシュアップして取り組みたい。		
普及啓発事業	①全事業の参加者数 ②新規来館者数	①9事業中5事業での目標参加者数を達成、総参加者数10,000人 ②アンケート回答者の15%以上が「初めての来館」と回答	①6事業で達成、12,907名 ②16%	・①普及啓発事業のうち6事業において目標参加者数を達成し、総参加者数10,000人を超えることができた。 ・②新規来館者数も目標を達成し、各事業の広報活動が観客や参加者の拡大に繋がった。		

(2) 「創造性・企画性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

人材養成事業 ・「舞台技術基礎講座 はじめの一步 vol.17」は、公演を行うにあたり必要となる舞台・照明・音響の基礎的な知識や技術をまんべんなく学び、最後に疑似本番を通して催事の流れを体験してもらうことで、舞台の醍醐味と達成感を感じながら、自ら文化芸術活動などを行っている方の催事運営の円滑化に役立ててもらうことを期する事業。デモンストレーション公演の協力者以外をすべてインナースタッフでまかなっているため、クラシックやバンドというひとつのジャンルの枠にとらわれない、施設の特性と使い方を存分に生かした本事業ならではのデモンストレーションを実施し、受講生に舞台の可能性を示した。 ・「リージョナル・シアター2024 いわきアリオス演劇部+(プラス)」は、今年度より参加者の年齢制限の上限を撤廃したことで、より幅広い年齢層の参加者が交流できる事業へと発展した。また、参加者の募集は俳優だけでなく、技術スタッフや制作・演出助手のスタッフも対象にしたことで、様々な分野の人材を発掘・育成した。 ・「アリオス☆子どもの弦学校」は、単にヴァイオリンを習っている子どもの技術的な底上げにとどまらず、初心者にも弦楽器を無償貸与し、また市内のヴァイオリン教室を紹介したり、チェロについては毎月のレッスンを実施すること、さらに成長期の子どもに対しては分数楽器の貸与によってサポートするなど、子どもが弦楽器を習う時に発生する様々な負担を少しでも軽減することで、弦楽器を習いたいと思っている子どもたちが実際に学び始められ、継続できるようになるためのサポートができた。
普及啓発事業 ・「第10回いわき文化春祭り」は、広大な敷地面積を持つ本市で文化芸術活動を行う団体が一堂に会し、実演芸術だけではなく、美術や文芸、出店なども含めた多彩な催しを行う場と機会を提供した。また、舞台での発表を通して若い世代の育成と文化芸術活動の活性化を図るため、高校生以下が所属する団体の出演枠を設けた。これにより若い世代の参画が増え、世代を超えて交流が生まれるとともに活気溢れる催しとなった。 ・「所蔵楽器チェンバロコンサート」は、当館は所蔵する国内に2台しかないと言われている「16フィート弦付ジャーマン・チェンバロ」(1754年製ツェル／ハスモデルの復元楽器)を活用し、実際に市民にも触れてもらい、文化芸術に関心を持つ人材を育む場を提供し続けている。全国的な知名度と注目度が高いチェンバロ奏者による公演やワークショップを実施したことで、チェンバロという楽器とその作品の魅力を、市民をはじめ広く全国に発信することができた。

評価項目②:国際性(任意)

評価の観点
・(国際プレゼンスの向上)海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流)アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組)在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
・観客の反応	・アンケートにて「また観たい」と回答する人が75%以上	82.60%	「また観たい」と回答する観客の割合を75%以上とすることを目標として掲げておりましたが、実績として82.6%という高い満足度を得ることができました。この結果は、事業が観客にとって再鑑賞したいと感じさせるだけの魅力や意義を備えていたことの表れであり、当初の目標を大きく上回る成果と評価できます。 要因としては、以下の点が挙げられます。 国際性と地域性の融合 ウィーン・フィルのコンサートマスターを務めるヤメン・サーディ氏や、ショパンとポーランドの歴史を扱った企画など、世界的視野を持ちながらも、地域との関わりを丁寧に構築した点が、知的好奇心を持つ層に深く響いたと考えられます。 市民参加と主体性の重視 音楽の鑑賞にとどまらず、市民が表現者や語り手として参加する構成は、「ただ観る」ではない「ともに創る・考える」体験を実現し、観客の内発的な関心を喚起しました。 芸術を通じた社会的問いの提示 「分断の時代における音楽の意味」や「地政学的影響下の芸術」など、単なる芸術鑑賞を超えて、現代社会に通じる課題に触れた構成が、観客に深い印象を与えたと考えられます。 これらの点から、今回の実績は非常に良好であり、今後の事業展開においても「芸術を媒介とした対話・参加・国際的視座の共有」という方向性が、有効であることが裏付けられたと自己評価しています。		

(2) 「国際性」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

アリオス・文化教養シリーズ2024 【出演者】①・②浦久俊彦(文筆家・文化芸術プロデューサー) ①石川グラジナ(東京外語大学ポーランド語専攻科非常勤講師) ②福岡洸太郎(ピアノ) ※②はヤノシュ・オレイニチャク氏の急逝により中止となったため、特別編として実施 1. <u>市民参加型で開かれた「表現の場」</u> 参加者がただ受け身で鑑賞するのではなく、意見を交わしながら新たな文化芸術のかたちを共に考え、創り出すというスタイルは、観客にとって自発性を刺激し、継続的な関心を呼び起こす。 2. <u>地域と世界の構造的類似性への着目</u> 「東京―仙台間に位置する地方都市」という本市の立ち位置を、中央ヨーロッパに位置し西欧とロシアに挟まれたポーランドの歴史と重なる視点は、地域の課題を世界とつなげるユニークなアプローチであり、観客に深い思索を促す。 3. <u>音楽と歴史・政治・文化の交差点としてのショパン</u> 単なる音楽鑑賞にとどまらず、ポーランドという国家の文脈の中でショパンの音楽を捉え直すという試みは、知的関心の高い層にとって非常に魅力的。音楽の背景にある歴史的・社会的要素に触れることで、より深い理解と感動が得られる。 4. <u>継続的な発展性と信頼感</u> 事業が4年にわたり継続されていることから、内容の信頼性や成熟度が高まり、観客の期待と再来場意欲を高めている。 アリオス《トーク&ライブ》スペシャル2024 【出演者】①ヤメン・サーディ(ヴァイオリン)、中川優芽花(ピアノ)、石川洋行(お話) ②加藤昌則(ピアノ)、北村聡(バンドネオン)、黒澤彩(語り) 1. <u>国際的な視野と深い社会的メッセージ性</u> 中東出身の世界的音楽家と日本の社会学者による対談・演奏を通じて、「音楽が国境や対立を越える力を持つ」ことを体感できる点が、観客の知的・感情的関心を強く引きつける。 2. <u>世界最高峰の演奏に触れられる希少性</u> ウィーン・フィルのコンサートマスターとしてのサーディ氏の演奏は、質・格ともに一流であり、そのリサイタルを間近で聴ける機会は極めて貴重。 3. <u>地域性と国際性の融合</u> バンドネオンという南米由来の楽器を取り上げ、市民参加型で演劇的要素を交えることで、地元の観客に親しみやすく、かつ異文化理解の窓口となっている。 4. <u>観客参加型の構成</u> 語りや演出に地元市民が関わることで、観客自身が公演に関わるような感覚を得られ、鑑賞体験がより身近で印象深いものとなっている。 このように、世界的視野とローカルの力を融合させたプログラム構成が、深く開かれた文化体験の場として機能しており、それが再鑑賞を望む観客の多さに繋がった。特に、「地元から世界へ」という視座の広がりや、市民参加型で演劇的要素を交えたことが強く支持されるポイントとなった。

評価項目③:地域文化拠点機能

評価の観点
・(文化拠点)地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携)地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供)次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。 ・ホール利用サービス(貸館事業)の向上 ※ ・自由設定の観点(任意)

※ ホール利用サービス(貸館事業)を行っていない場合は不要

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評定	所見	対応・追加情報など
①連携する小中学校数 ②子ども対象事業の参加率 ③生活の質(QOL) ④貸館利用者の満足度の向上度	①小学校25校、中学校5校 ②全ての事業で目標定員を上回る参加者を得る ③「いわきアリオスの事業に参加することや、施設を利用し文化芸術活動することが生きがいとなっている」と回答する人が70%以上 ④75%以上が対応に「満足」「ほぼ満足」と回答	①小学校30校、中学校4校 ②6事業のうち3事業で達成 ③68% ④96%	・①連携する小中学校数に関して、中学校の目標値は達成できなかったものの、小中学校の合計で見ると目標数を上回る学校と連携することができた。これは小中学校対象のアウトリーチ事業「おでかけアリオス」による成果である。 ・②達成できた事業が半数であったため、参加者拡大のために広報活動のあり方を見直し、学校、保育園や幼稚園、子育て支援団体と連携した周知を強化して取り組みたい。 ・③実績の内訳は、事業の参加者が56%、施設の利用者が80%であった。参加者の生活の質(QOL)が向上するよう、参加者の声を取り入れながら事業内容を検討していきたい。 ・④貸館利用者の満足度は非常に高く、この水準が維持できるように努めたい。		

(2) 「地域文化拠点機能」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・「部活動支援事業」は部活動の地域展開に対応するため、福島県吹奏楽連盟および福島県吹奏楽連盟いわき支部と協働することで吹奏楽で活動をしたい子どもたちに場と機会を提供した。市民吹奏楽団にトレーナーとして活動に加わってもらうことで、子どもたちの活動を市民と一緒に支援できた。
・「アリオス☆子どもの弦学校／大人の弦学校」は、ヴァイオリンやチェロなど、弦楽器の充実した指導が受けられる体制の整備を図ることを目指して継続している。子どもだけでなく大人の文化芸術活動を支援することにより、子どもたちが文化芸術の香り豊かな将来の生活を思い描くことができる環境づくりに取り組んだ。
・「おでかけアリオス」は、学校や地域において音楽、演劇、身体表現、演芸のアウトリーチを実施し、誰もが気軽に様々な文化芸術に触れられる場として市内全域にアプローチした。入場者や参加者から評価は高く、また実施してほしいという声が多い。学校での実施は39回で、2,323名の子どもたちに文化芸術を届けた。音楽のプログラムでは、本市出身や在住のアーティストを起用しており、地域のなかで活躍できる人材の育成に取り組んだ。また、地域における会場は公共施設だけでなく商業施設を活用し、日常生活のなかで身近に文化芸術を楽しめる環境づくりに努めた。その際、各地域の支所や関係機関等を連携して広報活動や当日の運営を行った。

評価項目④:多様性とアクセシビリティ

評価の観点
・(プログラムの多様さ)プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ)アーティストやスタッフとして参画する人々の属性(性別、年代、居住地、他)が多様である。 ・(アクセシビリティ)障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。 ・自由設定の観点(任意)

(1) 令和6年度の自己評価

- 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
①若年層の利用者数(U25 及び子ども対象券種販売数) ②子育て世代に向けた事業数と託児利用者数 ③障がい者向け情報保障(字幕タブレット、台本貸出、ヒアリンググループ等)利用数 ④アウトリーチ事業の実施数	①計700人、前年度比15%増 ②6事業実施、年間20組 ③年間延べ20人 ④圏域内50か所以上	①418人、214%増 ②6事業達成、3組 ③4人 ④42か所	・①U25及び子ども対象券種販売数は目標値に届かなかったものの、前年度との比較では214%増と利用者数が大幅に増加し、若年層の利用者が拡大したと言える。 ・②事業数は目標を達成した。託児利用者数は達成できなかったが、託児の対象となるすべての事業で託児を設けており、子育て世代がいつでも利用できる環境を整えていた。 ・③利用数は達成できなかったが、事業によって字幕タブレットやヒアリンググループを用いて鑑賞支援サービスに取り組んだ。また、鑑賞支援サービスの情報を必要な方に届けられるよう、特別支援学校や福祉の関係機関と連携して広報活動を行った。今後も障がい者向け情報保障に取り組み、提供できるサービスの幅を広げて利用者の拡大に努めたい。 ・④目標は達成できなかったが、小中学校をはじめ、幼稚園、特別支援学校、公共施設、商業や観光施設等、様々な場所を活用してアウトリーチを実施した。また、近年アウトリーチを実施できていなかった福祉施設を対象にしたことで、新たなプログラムに取り組むことができた。 ・①②④に関しては、公演事業(助成対象外)を含むすべての事業でみると概ね目標を達成している。①805人、②19組、④54か所		

(2) 「多様性とアクセシビリティ」が向上したことを示すエピソードやグッドプラクティス事例を記入してください。

・「舞台技術基礎講座 はじめの一步 vol.17」は、翻訳機などを活用し、タイからの留学生1名を受け入れることができた。
・「和楽器×影絵 KAGEN」は、子ども向け公演、一般向け公演、年齢制限を設けないワークショップを当館とアウトリーチで実施した。年齢に関係なく参加できる複合的な事業の組み立てにすることで、当館の目的のひとつである「だれもが気軽に様々な文化芸術に触れられる機会をつくる」ためのアプローチ方法として効果的であった。
・「ホスピタルシアタープロジェクト」は、障がいの有無や年齢の制限なく鑑賞でき、視覚、聴覚、触覚、嗅覚等の多感覚を刺激する多感覚演劇公演を届けた。公演は参加人数を絞ることで、アーティストと観客との親密なコミュニケーションを促した。アウトリーチでは福祉事業所を訪問し、施設の利用者へ生演奏とダンス、多感覚あそびを組み合わせた公演を実施。施設の規模や利用者の特性に合わせた内容を構成し、また公演中も鑑賞者の状況を見ながら柔軟に対応した。
さらに「インクルーシブシアターをつくる」ワークショップを開催し、インクルーシブな文化芸術活動に関心のある実演芸術家や保育者、福祉事業者等の市民へインクルーシブシアターのノウハウを提供した。

評価項目⑤: 自由設定(任意)

①創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性 の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。

評価の観点
当館のミッションは、地域全体で次世代の文化芸術人材を応援し、持続可能な「文化芸術のあふれるまち」を実現することです。学校や団体に対しては、助成金申請のサポートや企画制作、現場支援を行い、市民が文化芸術活動が続けられるようサポートします。 また、誰もが気軽に文化芸術に触れられる機会を作り、地域コミュニティの再生と関係機関との連携を強化します。広い市域内に住む全ての市民に文化芸術を届け、心豊かな生活を提供することも重要です。市民の参画を得て、先人の功績を踏まえながら、未来の文化芸術の基盤を築き、次世代に継承することを目指しています。

(1) 令和6年度の自己評価

・ 評価補助シートで設定した評価指標と目標(値)、及び、その達成度に言及しながら自己評価を記入してください。

評価指標	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
①事業内容の充実を図る機能の構築 ②地域プログラム(ホール外)の拡大 ③インターンシップやスタッフ研修等の受け入れの改善 ④地域で文化芸術活動を行なっている学校・団体の持続可能な活動支援	①連携・関係団体の数 90団体 ②実施回数 215回 ③受け入れ件数 5件 ④連携・関係団体数 20団体	①81団体 ②335回 ③12件 ④17団体	量的成果において高い評価が可能でありつつも、一部指標において目標未達成が見られました。特に、②実施回数および③受け入れ件数では目標を大きく上回る成果を挙げており、事業の活性度と展開力においては非常に優れた結果と評価します。 一方で、①および④では目標未達成となっており、連携先の質や多様性の確保、継続的な支援体制の強化といった面で課題が浮かび上がりましたが、 、「団体との連携数」に関しては、数的にはやや目標に届かなかったものの、達成率は80～90%と良好であり、今後の継続的関係構築に向けた基盤ができていると考えられます。		

評価項目⑥: 運営体制と持続可能性

評価の観点		現状	目標(値)	実績(値)	団体の自己評価	所見	対応・追加情報など
「実現性」の評価項目より							
(ア)	(多様な財源の確保) 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。						
(イ)	(広報・営業力) 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。						
(ウ)	(他館連携) 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。						
(エ)	(設置者) 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。						
「持続可能性に関するチェックシート」より							
(オ)	(芸術監督) 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。						
(カ)	(長期的経営) 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。						
(キ)	(専門人材の確保) 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。						
(ク)	(職制の整理) 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。						
(ケ)	(世代間バランス) 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている(若年層の雇用に努めている)。						
(コ)	(ジェンダーバランス) 女性管理職比率が30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。						
(サ)	(ワークライフ・バランス) 仕事と育児・介護等の両立支援制度を整備し、推進している。						
(シ)	(コンプライアンス順守) 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。						
(ス)	(ハラスメント防止対策) 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。						
(セ)	(適正な契約事務) アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。						

4. 総評

・ 団体の自己評価

《文化芸術を通じた創造性と共生のまちづくり》

I. 創造性・企画性の深化と広がり

本年度の事業は、創造性・企画性の観点から着実な前進を遂げたと評価できる。人材養成事業においては207名が参加し、好評価(89%)を獲得。特に、舞台技術や演劇、弦楽器の基礎教育において、多様なニーズに応える講座が展開され、未経験者から経験者まで幅広い層が対象となった点は特筆に値する。
また、普及啓発事業では総参加者数12,907名・新規来館者比率16%と、目標を超過。いわき文化春祭りやチェンバロコンサートなど、施設の特性を活かした多様なジャンルの事業が展開されたことで、市民参加が促されただけでなく、文化芸術の魅力を多角的に発信できた。
これらの成果は、年齢・経験・ジャンルにとらわれない「ひらかれた文化芸術の場」を具現化する実践といえる。

II. 国際性の強化と地域への還元

国際性についても、高い評価が可能である。「また観たい」と回答した観客が82.6%に達し、鑑賞体験の質と持続的な関心の高さがうかがえる。
ヤメン・サーディ氏ら世界的音楽家を招聘した公演や、ショパンを通じてポーランドの文化・歴史に触れる試みなど、地域と世界を架橋する構成が注目を集めた。市民の参加を前提にした「対話型・参加型」のスタイルは、芸術を媒介とした国際的視野の共有を実現しており、今後のモデルとしても有望である。
さらに、文化教養シリーズの継続実施や、多国籍アーティストとの共演を通して、地域にいながらも世界とつながる体験が提供されていることは、国際的感性を育む場として非常に意義深い。

III. 地域文化拠点としての確かな機能

連携校数(34校)、貸館満足度(96%)などの成果は、いわきアリオスが地域文化拠点として信頼を得ている証である。「おでかけアリオス」では、学校・福祉・商業施設を含む多様な拠点でアウトリーチを実施し、延べ2,323名の子どもたちに文化芸術を届けた。
また、部活動支援事業においては、地域の市民団体と連携し、世代を超えた共創の場を構築。子どもから大人までが文化芸術を通じて関わり合い、生活の質を向上させている点も評価できる。
一部指標(中学校数、子ども対象事業の参加率)は未達であったが、今後は連携先との広報体制強化とニーズ分析により、さらなる拡充を図る。

IV. 多様性とアクセシビリティの実践

多様性とアクセシビリティの分野においても、実践的な取り組みが進んでいる。U25層利用者214%増(805人)、全事業への託児対応、54か所でのアウトリーチ実施など、数値上の拡大に加え、対象の裾野を広げた点が顕著である。
特に、ホスピタルシアタープロジェクトやKAGEN公演では、年齢・障がい・文化背景を超えた包括的な体験を提供でき、「だれもが気軽に文化芸術に触れられる」環境整備の実現できた。
字幕タブレットやヒアリングループ等の鑑賞支援サービスの導入も、今後の活用促進を通じて利用者の拡大が期待される。引き続き、福祉・教育現場との連携を強化し、包摂性の高い文化芸術活動の礎を築く必要がある。

V. 自由設定項目:地域全体を巻き込む共創の土壌づくり

本館のミッションである「文化芸術のあふれるまちの実現」に向けた、地域連携と人材育成の仕組みづくりも進展を見せた。
地域プログラム実施335回・インターン等受け入れ12件は、目標を大きく上回る成果であり、地域に根差した文化活動の活性化に大きく貢献したといえる。一方、関係団体数(81団体)、支援対象団体(17団体)については目標未達にとどまったが、達成率8~9割と良好な水準を維持しており、今後の質的連携や継続支援によって改善が見込まれる。
事業の実施数が増加している一方で、持続可能な支援体制の整備や、支援対象団体との継続的な関係構築が課題である。支援を単発で終わらせるのではなく、循環的・相互補完的に地域内の資源を活かす視点が必要である。

本年度の取組は、創造性、国際性、地域性、包摂性、持続性の各観点で多くの成果を挙げた。地域に根差しつつも世界とつながり、市民の生活に寄り添う文化芸術活動の実践は、地域社会における芸術の役割を再定義し、次世代へとつなぐ確かな一歩となった。
今後は、参加者の声を一層丁寧に取り上げながら、事業内容の質的深化と支援体制の整備を進め、市民誰もが「文化芸術に参加できる、つながれる、育てられる」環境づくりを推進していくことが重要である。

・ 所見

